

2020 年度キリスト教史学会賞の選考結果について

担当理事 李省展、川村信三

昨年度は学会賞の授与は見送りとなったが、本年度は複数の推薦書籍を対象にして選考委員会で審査した結果、松谷曄介氏の著書『日本の中国占領統治と宗教政策―日中キリスト者の協力と抵抗』（明石書店、2020 年 1 月）に学会賞を授与することが理事会をへて正式に決定されました。誠に喜ばしく思います。

本書は、一次史料群を丹念に解説・整理したのみならず、それを戦時史の全体像に定位し得たのは、中国近代史全般に対する深い理解があったものであると評価されました。従来の研究においては単なる「宗教侵略」組織として扱われる事例が多かった対象について、その形成過程や活動実態、さらに現地の中国人や欧米人との関わり方などについて、初めて実証的に解明されたといえます。

本書はまた、旧来の「善悪」論や「侵略／抵抗」パラダイムを実証的に批判する歴史学的収穫だけではなくて、非常時に置かれた個々人の選択や決断といった、「信仰」の内面をも描写し得る地平を開拓しています。

現時点においては、世界的にも研究が空白に近い戦時中国キリスト教史研究に対する本書の貢献は、極めて大きいものと考えられます。

以上のような評価とともに 2020 年度のキリスト教史学会賞を松谷曄介会員の著作に授賞することを決定いたしました。

授賞著書：松谷曄介『日本の中国占領統治と宗教政策―日中キリスト者の協力と抵抗』（明石書店、2020 年 1 月）